
今昔世界はNegativeHearts

青藍

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

今昔世界はNegative Hearts

【Nコード】

N0794X

【作者名】

青藍

【あらすじ】

『幸せな奴らを死遭わせることで、わたしも幸せになれるの』
歪つな角度に口元を狂わせ、厭らしく笑う血塗れの幽霊少女。

主人公：佐世川^{させがわ}澪^{れい}は靈感が強いが、幽霊は怖いという、普通のひきこもりでネトゲ廃人な高校生。

澪が高校の入学式から不登校の青春時代を謳歌させようとしている最中、その凶悪で不可解な事件は起きた。

——高校生連続失踪事件。

毎晩遅く、皆が寝静まったところで高校生が忽然と失踪する。

誰かが侵入した形跡も、被害者が家から出て行った形跡もない。

奇妙奇天烈な事件。

『自分には関係ない』と勝手に決め付け、ネットゲームに没頭する澪であつたが……。

「夢幻さん……おいつす……」

「むう？ どうしたの、澪。声に元気がないよ。今日はいつからINしてるのさ？」

「ログインから240時間経ってるって、さっき警告が……」

「（返事がちゃんとした答えになってない……）そろそろ休憩した方がいいんじゃないかな？」

「いや、あと一日でこのキャラがレベカンするんだ」

「……ねえ、もしかして昨日、僕が食事運んで来てから休憩して無い？」

「……そんなことは、ないよ」

「ほっ……」

「十日前に食事持ってきてくれたから、一度も休憩してないし、寝ても無い」

「はあ！？」

「この椅子型トイレの中もいっぱいになる」

「……澪。即刻、ゲーム止めて。僕の説教を聞い」

「お前と一緒に高校に通いたいから」

「な、なんで、突然！？」

「このキャラを作り終われば、グループボスのローテを早くすることが出来る」

「それと僕と学校に通いたいことの何が関係あるの？」

「全員がボスがドロップするレアアイテムを手に入れるまで僕は参加し続けなきゃいけない。だから、ローテーションを早くすれば、それだけ早くみんなアイテムが手に入れられるってこと。そうすれ

ば、僕はこのゲームを引退出来るんだ」

「！？ 仕組みがよくわからないけど、遷はゲームを引退するんだね！？」

「そうだよ、その為にリアルの支援を頼みたい」

「いいよ。なんでも言つて！」

「この銀行口座のお金を……俺のこっちの口座に振り込んでおい
て欲しいんだ」

「0ばかりなんですけど……どうしたの、このお金？」

「ファイトマネーだよ」

「ま、まあいいや。じゃあ、行ってくるね」

「（ちよろいな）」

Chapter - ZERO - 「ああああ」は死んだ。

まるでホラーゲームの中と錯覚しそうなぐらゐの薄暗い世界。太陽や月、星や雲、地面と呼べるものすら無い。

そんな世界に小さな少女が……否、小さな少女の魂が、魂が抜けたように彷徨う。

少女はまだ十代に届かない程の小さな容姿で、身体には所々が血で染まった白い布のような装束を纏い。生前から長かった黒髪はぼさばさで、やはり髪の毛の一部にも血がこびり付いている。

歪な口元は、小刻みに揺れて、同じ言葉を繰り返す。

「ひたひた……ひたひた……」

裸足で一步踏み出すたびに、彼女は擬音で足音を再現する。

「ひたひた……ひたひた……ひたひた……ひたひた……」

氷のように冷たい無機質な床を裸足で歩いているのに、足に力を入れても足音は鳴らないのだ。

「ひたひた……ひたひた……ひたひた……ひたひた……ひたひた

……ひたひた……」

目の端から流れ落ちる生温かい血涙は、干からびることなく頬を伝う。

ここに来たばかりの時に拭っていたせいで、手の甲はぬめぬめと真っ赤に濡れていた。

だが、心が壊れ切った彼女にとってはどうでもいいことだった。

「ひたひた……ひたひた……ひたひた……ひたひた……ひたひた

ひたひた……ひたひた……ひたひた……」

.....。
- - - - -。
幾らとも数えきれない月日は、既に流れていた。崩壊しきつても
終わりは無いのかもしれない。

少女は当初の目的すら忘れて、何年間も一人きりで歩いていた。

—— ぴきぴき……くちゃくちゃ。

だから、突然の出来事で感情が上手く作用せずに言葉が生まれて
こなかった。

目が隠れる程長く黒い前髪、生理的に嫌悪を抱いてしまう大量の
蛆が沸いた大鎌を持っている男が目の前に現れたことに。

鎌から転がり落ちた蛆が男の汚らしいローブの肩を這って、白く
血管の浮いた首筋にキスをするかのようにへばりついた。

壊れたはずの精神がその男を凝視することによって、瑞々しく潤
っていくような感覚。同時に吐き気と嫌悪感。

ひたひた、としか紡げなかった喉から、その男に対しての会話が
始まる。

——これは七年前に遡る。

少女が目覚ましたらそこは何もない薄暗い空間だった。

彼女は最初に理解した。単純なことを理解した。——自分が死ん
でしまったということ。

自分の四肢が粘土のように吹き飛ぶ記憶も思い出しもした。——
交通事故。迫るフロントライトの眩しさ。

死んだ魂がどこに逝くか彼女は自分で理解した。——ここが死後
の世界。私はそこにいる。

彼女は人恋しくなった。人と話がしたかった。——死後の世界で
会いたい人達が居た。

暗闇の世界を彷徨い続けた。——それでも、歩き続けた。呼び続けた。

彼女は理解していなかった。自分の置かれている状況を理解していなかった。

——それは希望的な観測——幼い少女に理解できるはずもない、理解していたとしても結果は遠からずやってくる。

小さな少女は人間の常識で呼んだ。「お母さん」と「お父さん」と、自分よりも前に死んでいた両親を呼び続けた。

死んだ両親に会う。それだけが死後の救いであった。

死にたくて死んだわけではないけれど、何処かで必ず両親に会えると信じて、子猫のように、子犬のように、鳴くように叫んだ。

——埋め尽くした後悔が彼女を蝕み、遂には心の崩壊する音色を少女は奏でてしまった。

不条理、理不尽、無慈悲、蹂躪。か弱き少女の魂には、あまりにも凄惨たる黄泉実。

彼女の最後の望みはそこには存在しなかったのだ。

この世界には天国も地獄も無い。あるのは際限の無い闇、魂を崩壊させる孤独な常闇。

——ここは『魂の監獄』。

死神が管轄する輪廻サークルから外された魂が収監される、地獄よりも過酷な牢獄。

輪廻転生する機会を失った魂は、ここで恐怖と怨恨を蓄積し、腐った感情が熟成するまで飼われて、最後には死神達の御馳走として食される。

だが、少女は輪廻サークルから外されるに値しない良心で純粋な少女だった。

ゆえに、精神崩壊後に埋め尽くされた負の感情は、空のペットボトルのような『虚無感』。明らかに死神の御馳走の基準とは違う安っぽい魂である。

ならば何故、彼女がここに収監されているのか……。

冤罪。いいや、それは違う。千億近い数のある魂全ての過去から死後の状況まで、詳細な情報を死神の記憶能力と現世から取り寄せたスーパーコンピュータの二つで総括しているので冤罪はまずあり得ない。

例え、不手際でそういうことがあったとしても、精神崩壊する前には絶対に気がつき、魂の浄化と輪廻転生の優先などの補償措置をして、元のサークルに戻す。それが、冥界と人間界との取り決めであり、人間の魂を管理する役職である死神の法だ。

法を破るとどうなるかは、死神の世界でも同じである。むしろ、人間の処罰よりも厳しいことの方が多い。が、死神はその法を犯した。

この少女に目をつけて、故意的に魂の監獄へ収監した死神がいたのだ。死神の長に悟られないように、法を破った奴が。

そして、七年の歳月が経ち、少女が生きていれば十八才になる年になった。

——下準備は完璧に整った。あとは自分が少女と接触すれば、全てが上手くいく。

この少女が持つ特別な才能と死神の職権を利用した凶悪な事件の幕開けである。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0794x/>

今昔世界はNegativeHearts

2011年10月9日15時57分発行